

弘前大学と生命保険大手の明治安田生命（本社東京）は13日、楽しみながら健康意識アップにつなげる「QOL健診（啓発型健診）」を新年度から全国で実施すると発表した。年間で最大450回開く予定で、同社の営業職員約3万7千人が各地で受診者を募る。

QOL健診は、弘大が弘前市岩木地区で約20年間実施してきた「岩木健診」を基に開発。体組成や骨密度、内臓脂肪、立ち上がる力などを測定し、生活習慣や心の健康などの聞き取りも行う。短時間でできる上、その場で結果説明とアドバイスを受けられ、病気の予兆を見つけて生活改善に取り組めるのが特徴だ。

県内では、従業員の健康づくりで導入する事業

弘大QOL健診 全国でどうぞ

明治安田生命と協力年450回

所が増えつつあるほか、弘前市は商業施設ヒロロに常設の受診拠点を開設している。

事業名は「QOL健診 明治安田×弘前大学」で、弘大が技術指導し、同社の営業職員らが運営する。個人客向けのほか、企業単位でも実施する。同社の保険契約者以外も受診できる。

弘大学長特別補佐で健康未来イノベーション研究機構長の村下公一教授は「弘大発の取り組みが国民全体に広がるのは大変うれしいし、今後の健康研究にも役立つ。県内



でも短命県返上の取り組みがより広がるきっかけになる」と話した。

同社広報は取材に「弘大のQOL健診は啓発効果が非常に高く、お客さまの健康増進の取り組みを大きく後押しできる」と答えた。問い合わせは各地の支社や営業所で受け付けるという。

（赤田和俊）

▲2023年3月、弘前市で開かれた弘大QOL健診の様子。新年度から明治安田生命が全国で実施予定だ